

第 1 2 回環境保全型農業推進コンクール受賞事例の取組概要

大賞（農林水産大臣賞）

名称 (所在地)	対象作物	環境保全型 農業実践 面積	取 組 概 要
ながしま農園 (神奈川県横須賀市)	野菜 水稲	495a 10a	<ul style="list-style-type: none"> ・平成7年にドイツに研修留学し、生物農薬など環境保全型農業を学ぶ。先代からの環境保全型農業による農作物栽培を継承し、また、ドイツ研修で学んだ環境保全型農業を実践。 ・約80品目の野菜(495a)、水稲(10a)全面積において、環境保全型農業を実践。 ・農作物の生産は、堆肥は地元ブランド牛の三浦葉山牛の堆肥と自家生産した籾殻、米糠を混合してぼかし堆肥を生産・施用し、農薬低減では、生分解性マルチの使用、地元の造園業者から木材チップをほ場やハウス内に敷き雑草抑制や土壌の保温に役立てる。 ・在来種のクロマルハナバチを活用し生態系の保全。 ・平成12年度からIT(PDA、気象観測システム)を活用した栽培管理を導入し、栽培管理。 ・生産された農産物は、直売所、生協、百貨店、レストラン、百貨店と幅の広い販路を確立。 ・消費者を自分の農園に招き交流会を催し、地元の中学、高校の総合学習としての活動を行い、更に国内だけでなく、タイ国のタマサード大学の研修生を受け入れ農業者交流も実施。

優秀賞（全国農業協同組合中央会会長賞）

名称 (所在地)	対象作物	環境保全型 農業実践積 農地面積	取組概要
どではら会 (栃木県那須塩原市)	水稲 大豆、野菜 等	182.9ha 52.1ha	<ul style="list-style-type: none"> 平成4年に既存の稲作研究会「緑陽クラブ」、「三越会」のメンバー10戸が会の前身で、この2つのクラブを統合し、平成15年に「どではら会」が結成され、現在32戸まで増加。 那須塩原市は、酪農等畜産経営が盛んで、牛の敷料として稲わらが不可欠であることから、地域循環の有効活用を行うため、稲わらと牛糞堆肥の交換を実施。 栽培ほ場ごと、土壌分析・稲の生育状況を勘案し堆肥等の施用量を決定。平成10年から深水栽培を研究・実践し、また、18年度から温湯種子消毒器を導入し、全ほ場の種子を温湯種子消毒で実施。温湯種子消毒器の導入により、農薬の廃液がゼロになったことから環境負荷低減に繋がる。 会は生協と協議を行い独自の米の栽培暦を作成し、それに基づき生産し、栽培履歴記帳を実施。 米の販売価格は、消費者を交えた価格設定委委員会で決定した玄米価格で消費者に「安全・安心な米」を供給。転作田で栽培している大豆、新鮮な野菜等を生活クラブに供給。 また、「おむすび交流会」や「田んぼの生きもの調査」を開催し、消費者と交流。

優秀賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）

名称 (所在地)	対象作物	環境保全型 農業実践積 農地面積	取組概要
農事組合法人 霞ヶ浦有機センター (茨城県土浦市)	野菜、果樹	153ha	<ul style="list-style-type: none"> 昭和48年から独立農家の会が発足し、昭和60年に法人化。現在60戸の農家が、野菜を主に18品目を作付面積153haすべてにおいて、環境保全型農業に取組。 主な取組として、地元のたい肥センターで地域から発生する家畜排泄物、籾殻、米ぬか等を原料とするたい肥を生産及び組合指定の有機100%の肥料を施用し、また50%農薬使用低減を目標として、産直5原則（素性がわかり、顔の見える産直、栽培方法がわかり、安全性を高めた産直、交流のできる産直、生産者、消費者が平等の立場での産直、事業として発展していく継続性のある産直）を掲げて、農作物を生産。 農産物の有利販売（市況より最大300円高値）、出荷用資材の減量化（段ボールからイフコ・コンテナ）に努める。 年10回以上の消費者との交流会（収穫祭等）を行い、地元の小学校への地産地消の食育活動を実施。 環境保全型農業の地域への波及、次世代の後継者も徐々に育成。

優秀賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）

名称 (所在地)	対象作物	環境保全型 農業実践 面積	取組概要
株式会社 生産者連合デコポン (千葉県成田市)	野菜	175ha	<ul style="list-style-type: none"> 平成6年に、安全性が高く、安心して食べられ、且つ食味の良い農産物の生産にこだわる生産者が集まり、有限会社生産者連合デコポンを設立、平成17年に株式会社。 平成6年当時は、生産者17名、有機・特別栽培の面積25haが、平成18年には98名、175haに拡大。 生産者の輪は、県内にとどまらず、北海道、茨城県、群馬県、愛媛県等と全国的に拡大。 農作物の生産は、土壌消毒剤を一切使用しない、除草剤の全面禁止、化学肥料及び化学合成農薬を極力使用しないことを生産者全員の約束事とし、また、穀物、ミネラルの高い海産物、植物活性酵素等を原料とした堆肥を生産・使用。 生産された農産物は、生協、自然食品店、レストラン等と契約販売を行っている他、インターネットによる個別販売を全国に先駆けて行い、また全国初の海外への新鮮な野菜ボックス宅配事業を取組。 新規就農者を積極的に受け入れるため、「デコポン本気百将塾」を開催し、環境に配慮した生産技術を普及し、また、全国初の消費者と農業者とで共有できるシステム「農消資本会社（資本金は消費者が出資し、野菜で配当金を分配）」を確立。
有限会社 マザーアースクラブ (静岡県 賀茂郡南伊豆町)	ナバナ ノブキ カボチャ なつみかん 竹の子 水稻	7.9ha	<ul style="list-style-type: none"> 平成元年に南伊豆町に移住した石川憲一氏が、農薬を極力使用せず、有機質肥料を用いた野菜栽培を単独で始め、平成18年4月に有限会社マザーアースクラブを設立。現在生産者は、47人。 野菜、水稻を有機質肥料、化学合成農薬を極力使用しない環境保全型農業を全面積（7.9ha）で取り組んでおり、品目ごと栽培計画・記録を作成し、主に生協と販売契約を結んで生産。また、平成16年度からエコファーマーの認定に取組み現在15人が認定。 生産した農産物の消費者交流は、地域以外に東京都渋谷区で年4回開催されるアースデイマーケット（フリーマーケット）に出展・交流。 マザーアースクラブで使用するコンバインやトラクターの燃料は、南伊豆町の地域の廃油を集め、精製したバイオディーゼル燃料（BDF）として使用。 地域の耕作放棄地率が23%と高い中、遊休農地水田1.7ha、畑4haをマザーアースクラブ関連環境保全型農業実践農地として活用。また、新規就農者の相談窓口も行い担い手育成に努める。

奨励賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）

名称 (所在地)	対象作物	環境保全型 農業実践 面積	取 組 概 要
木瀬果樹部会 (群馬県前橋市)	梨	33.5ha	<ul style="list-style-type: none"> ・天川大島ナシ組合、上大島梨組合、下大島梨組合、女屋・長磯梨組合の4つのナシ生産組合が組織している組合で、江戸時代から栽培を開始。 ・平成12年度から性フェロモン剤を導入し、化学合成農薬の使用を25%削減。病虫害発生予察についても、県出先機関及び農協と一定となって調査を行って農薬削減に役立てる。 ・平成16年度から堆肥利用組合を部会内に組織し堆肥を有効利用し、化学肥料削減を推進して環境保全型農業に取り組む。 ・平成13年度からエコファーマーの認定。 ・「安全で安心して」食べられるナシ栽培ができるようになり、前橋市と連携し、平成13年度から市の保育園の園児に無料で配布し、食育・環境教育を実施。
農事組合法人 三芳すこやか部会 (埼玉県 入間郡三芳町)	ほうれんそう こまつな チンゲンサイ みずな かぶ えだまめ	47ha	<ul style="list-style-type: none"> ・平成10年に農業生産法人として部会を設立。 ・江戸時代から続く平地林の落ち葉堆肥を活用した循環型農業を実践し、平成6年に埼玉大学「未利用食品リサイクル研究会」に参画し、廃棄物処理業者やプラント設計業者と共に食品残さの堆肥化を実現。 ・平成15年に肥料メーカーと共同で独自のブランドの有機質肥料「三芳すこやか有機745オリジナル(窒素成分100%有機質由来)」を開発。 ・品目ごとに減化学肥料・減農薬による栽培基準を定め、環境にやさしい農業実践。 ・ほ場ごと年2回土壌診断を実施し、ほうれんそうでは、葉内硝酸態窒素濃度を簡易に測定するキットを導入し、化学肥料低減による栽培を実施。 ・チンゲンサイやみずな等は防虫ネットを使用し、化学農薬低減を実施。 ・みずなとチンゲンサイ生産者全員16年度にエコファーマー認定を受け、現在法人としてエコファーマー認定を検討。 ・部会の野菜は、直売所をはじめ都内のデパートでは特設コーナーを設け販売され、安全・安心な野菜として消費者・流通業者から高い評価。

奨励賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）

名称 (所在地)	対象作物	環境保全型 農業実践 面積	取 組 概 要
笛吹農業協同組合 中道支所なし部会 (山梨県甲府市)	梨	16ha	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和 53 年から水田転作事業の導入を機に農協管内で梨栽培開始。 ・地域内の養豚農家から生産された堆肥や稲わらを敷わらとして有効活用し、有機質投入による土づくりを实践。 ・平成 13 年度から、県普及センターと連携しながら、ライ麦等による緑肥作物を用い樹間のみを草生する部分草生方法を確立・導入。 ・平成 12 年度から梨の害虫ナシヒメシンクイへの効果として「コンフューザー P」を導入したが、効果が不十分のため、「コンフューザー N」の開発により、16 年度に効果が確認されたことにより、慣行より 5 回削減された減化学合成農薬防除暦を策定。17 年度現在で 16ha のうち 10.6ha (66%) でフェロモン剤を利用した減化学合成農薬による栽培が導入。 ・17 年 5 月になし部会全員がエコファーマー認定となり、これを契機に地域の基幹農業従事者の半分以上にあたる 369 名がエコファーマー認定。 ・生産された梨の 9 割は、農協を通じた市場出荷。消費者との交流は、「梨まつり」において実施。
農事組合法人 あち有機生産組合 (長野県 下伊那郡阿智村)	畜産 水稻、野菜 果樹	476 頭 393a	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 12 年に畜産農家、耕種農家と家畜糞尿の有効活用を目的に「阿智村堆肥生産組合」を設立し、平成 16 年に農事組合法人。 ・堆肥センターで製造される「あち有機いきいき」は、主原料を搾乳牛及び肥育牛のみの糞とオガコ、籾殻を混ぜ 100 日以上掛けて発酵・熟成し臭気の気にならない完熟堆肥。 ・堆肥の利用は、村内の耕種農家に限らず、一般の家庭菜園等でも利用。 ・堆肥の効果試験は、村内の主要品目である水稻、キュウリ等で行われており、収量、品質等調査が実施され、慣行栽培より良い結果報告。 ・村では、独自の環境保全型農業の農産物認証制度を創設し、29 名の農家が取得し、また、県の環境にやさしい農産物認証制度（特別栽培）、エコファーマー認証に取組。 ・村の農産物認証制度による農産物は、コープ店内に専用の直売コーナーを設置。消費者には優先的に購入されるため、売上も 20 から 30% 増加。 ・地元の温泉旅館・飲食店等地元農産物の利用についての地産地消の講習会を開催。 ・県外の愛知県名古屋市の農業生産グループ（天白グリーンファーム）と「あち有機いきいき」を利用した農業体験の交流。